

核兵器廃絶・放射能被害根絶・原子力空母いらない！

神奈川県原水協通信

発行：原水爆禁止神奈川県協議会
横浜市中区野毛町 2-61 大沢ビル 4A
Tel 045 (231) 6284 Fax 045 (261) 6577
Mail- kana-gensuikyo@gol.com
発行日：2018.10.4 No. 1 5 5

核兵器禁止条約 発効へ着実に前進

署名69カ国・批准19カ国に

批准に向けて着実に前進

核兵器廃絶国際デーの9月26日、国連本部で、核兵器禁止条約の署名批准書提出が行われました。この日提出した国は、署名が7カ国、批准国が4カ国でした。その後批准国もあり、署名国が69カ国、批准が19カ国になりました。

禁止条約への署名・批准が開始されてから9月で1年になります。署名・批准がなかなか進まないという声もありますが、このペースは、他の大量破壊兵器関連の条約と比べても記録的なペースで進んでいます。さらにこのペース、流れを加速させ禁止条約を発効させなくてはなりません。そのために求められているのが「ヒバクシャ国際署名」を大きく広げることです。そして、日本政府の禁止条約の発効妨害をやめさせ、日本も署名・批准することを迫る運動が重要になっています。

全県各地で、多彩な活動展開中・・・

署名行動

核兵器禁止条約早期発効のため、「ヒバクシャ国際署名」をもっとと広げることが重要です。全県各地で6・9署名行動をはじめ地道に継続的に署名行動に取り組んでいる団体や地域原水協があります。ただ、この間の署名数の伸びが弱まっている気がします。今年の異常な暑い夏で活動が鈍ったかもしれません。

6・9行動などの報告では、最近では冬や春に比べると署名しているとの報告です。3人で50分間での宣伝・署名行動で、署名数27筆、募金6023円、チラシ配布30枚との報告もあります。年内50万筆目標の達成をめざし、署名する人を飛躍的に増やし、署名数でも飛躍の「署名の秋」にしましょう。県原水協の現在の到達は、9月30日現在約23万筆です。

9月の署名行動 横須賀



被爆者募金

定期総会・常任理事会で、現在の被爆者募金の意義と重要性について討論し、新方針を決定し5月から取り組みを進めてきました。

6・9行動、平和の集会、組合内での呼びかけ、個々面接での訴えなど様々な形で被爆者募金の取り組みが広がっています。新しい黄色の募金箱とチラシの活用も取り組みを豊かにしています。

取り組んだ団体・地域原水協や個人から、「気軽に訴えれば多くの人が応えてくれる」「6・9行動でも、黄色の募金箱を署名画版の上に置くと見て募金する人が何人もいた」「組織として提起し募金袋を届けると、多くの人が応えてくれて目標を超えた」などの声が寄せられています。現在、今年の県原水協募金目標の60%の到達です。さらに広げよう。



画版の上に募金箱が

こんな活動も

核保有国大使館要請行動

5月20日、ロシア、イギリス、フランスの大使館要請行動に神奈川県原水協から4名が参加。核保有国は「核抑止力」論を主張し、禁止条約を拒否する態度に終始。署名を広げる決意を強くしました。



横須賀市長沢の母子像前集会

横須賀の長沢の丘の母子像前で、横浜市に米軍ジェット機が民家に墜落して41年目の9月27日、この悲惨な事件を風化させてはならないと母子像前集会が行われました。約70人が参加しました。



母子像の前で